

臨床検査医学科 臨床研修到達目標（選択）

1. 特徴

血液凝固異常症に対して適切な医療を提供します。

診療実績は多摩地区随一です。

血友病診療地域中核病院に指定されています。

2. ねらい

- 1) 医師が自ら実施するべき基本的な臨床検査法について知識、技能、態度を習得する。
- 2) 中央検査部の機能と構造とそこで行われている検査項目と意義を理解する。
- 3) 医師に必要な輸血の理念と輸血のガイドラインを理解し、適切な輸血方法を選択できる。
- 4) 輸血部の果たすべき役割を理解し、安全かつ有効な輸血を推進できる。
- 5) すべての臨床医に求められる基本的な診察に必要な知識・技能・態度を身につける。
- 6) HIV 感染症患者の診療に必要な知識・技能・態度を身につける。

3. 一般目標

1) 基本的検査法

- (1) 検体の採取を適切に行える。
- (2) 検査材料の取扱い方および保存、輸送を適切にできる。
- (3) 精度管理、異常値、基準値、病態識別値の意味を理解する。
- (4) 以下の検査を自ら実施し結果を解釈できる。

血液型判定、交差適合試験、不規則抗体スクリーニング、血液一般検査血液塗抹標本、血球計数盤による計測、出血時間、血液凝固検査、血液ガス分析、簡易測定器による化学検査（血糖、電解質など）、基本的な細菌学検査（グラム染色、抗酸菌染色）、赤沈、心電図、検尿、検便。

- (5) 以下の検査につき適切に選択・指示し結果を解釈できる。

日常診療で使用頻度の高い一般検査（髄液検査、寄生虫検査を含む）、血液・生化学検査、血清免疫学検査、微生物検査、肝機能検査、腎機能検査、代謝・内分泌検査、呼吸機能検査、超音波検査。

- (6) 中央検査部の構造、機能と臨床とのかかわり合いを理解する。

血液学検査、微生物検査、生化学検査、生理学検査、免疫血清学的検査緊急検査室。

2) 輸血の管理体制を理解する

- (1) 赤血球製剤の適切な保管方法と使用期限を理解する。
- (2) 新鮮凍結血漿の適切な保管方法と使用期限を理解する。
- (3) 血小板浮遊液の適切な保管方法と使用期限を理解する。
- (4) 副作用報告の重要性を理解する。

3) 輸血療法の選択と実施方法を理解する。

- (1) 術前貯血式自己血の適応を決定しオーダーできる。
- (2) 自己血輸血の種類と採血方法を理解し実施できる。
- (3) 白血球除去血液製剤の種類と適応を理解し使用できる。
- (4) 放射線照射血液製剤の適応を理解し使用できる。
- (5) ガイドラインに沿った輸血方法を理解し実施できる。

4) 患者や家族との関係

良好な人間関係の下で問題解決できる

- (1) 適切なコミュニケーション技術（患者や家族への接遇マナーも含む）
- (2) 日常生活指導（食事・栄養と運動など）
- (3) インフォームドコンセントについての概念を正確に把握し実践できる。
- (4) プライバシーの保護について認識する。

5) 医療スタッフとの関係

様々な医療従事者と協力・協調し、的確に情報を交換し問題に対処できる。

- (1) 指導医・専門医のコンサルテーション・指導を受けることができる。
- (2) 包括医療について理解し協調的なチーム医療を実践できる。

6) HIV 感染症患者の診療

- (1) HIV の基礎的事項を理解する。
- (2) 社会的側面を理解し配慮することができる。
- (3) 経過観察の検査の意義を理解し適切に使用することができる。
- (4) 治療薬の特性を知り、副作用についても説明できる。
- (5) 包括的医療を行うための情報提供の方法を知る。

4. 研修方略

研修医一人に指導医一人がつき、研修指導全般の計画を立てる。担当症例には各疾患の専門医が指導に当たる。部長回診や検討会において、症例呈示により担当症例の理解を深め、また、CPC により担当症例以外の疾患について診療の研修をする。

検査としては、輸血検査(血液型、交差適合試験)、微生物学的検査(グラム染色)、腹部エコー、心エコー、頸動脈エコーなどを行い、指導医のもとで研修に携わる。

勉強会としては、輸血部勉強会で最新の医学的知見に基づく輸血療法についての知識を深め、教官による HIV 感染症や血液凝固異常症に対するセミナーにおいて最新の診療知識を得る。

1 ヶ月研修で基本的検査や輸血療法に加え、HIV 感染症や血液凝固異常症の基本的診療に関する研修が可能である。

5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
臨床検査部 輸血部 臨床検査医学科	輸血部 採血業務 検査相談	外来業務	微生物検査	外来業務	輸血部 採血業務 検査相談	心エコー
	免疫血清検査 血液検査 一般検査	微生物検査 輸血部 ミーティング	生化学的検査 検査部 ミーティング 輸血部勉強会	輸血検査 凝固学的検査	緊急検査 凝固学的検査	

6. 研修評価

- 1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う
 (症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する
 (症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 田中 朝志